

「人間の中から出てくるもの」

2022年5月15日（日）仙台教会主日礼拝説教 マルコ7：14～23

牧師 宇都宮毅

おはようございます。先週ダチョウ倶楽部の上島竜兵さんが亡くなりました。ずっとテレビで活躍されてきた人が、目の前からいなくなってしまうことにショックを覚えつつ、無力感に襲われます。私たちは自分一人くらいいなくなってもと考えてしましますが、一人の存在がどれほど大きいものなのかと感じさせられます。ビートきよしさんがTwitterに「みんな生きろよ」と投稿していました。命の重さを感じつつ、私たちも共に生きていきましょう。

さて皆さんはこの世界をどう捉えておられるでしょうか。私たちは自分の内側と外側というものを持っています。外側は自分の領域には無いものです。私たちはそこからやってくるものをすべて知らないわけですから、自分にとって良いものなのだろうか、悪いものなのだろうかと判断し、区別をします。しかし何が良くて、何が悪いのかというはっきりとしたものを、私たちは持っていません。にもかかわらず、私たちは外の世界を二つに分け、分断するということをします。

今朝は自分の外にある世界を恐れ、自分を守るために良し悪しを評価する私たちにとって、外の世界とは実際どのようなものなのかを、マルコ7：14以下から考え、この人間社会の問題性を共に考えてみたいと思います。

少し前に悲しい出来事が起こりました。女子プロレスラーの木村花さんが22歳の若さで亡くなりました。「テラスハウス」という番組に出演していた彼女の言動に対して、SNS上で誹謗中傷され、自分の命を絶ってしまいました。自らの名前を名乗らず、自らの正義をかざし、相手を裁き、価値付けをする人たちによる書き込みが原因です。彼女のツイッターにこのような言葉が残っています。「死ね、気持ち悪い、消えろ、今までずっと私が一番私に思っていました。・・・弱い私でごめんなさい。」そしてこの誹謗中傷に同調し、無名の裁判官がどんどん増えていきました。同調圧力がある中、その誹謗中傷に反論する人は少なかったのでしょうか。このようなことは、決して、木村さんだけの場合だけではなく、インターネット上、さらに社会のあちこちで行われています。集団リンチやいじめと同じです。芸能人の藤田ニコルさんがこのようなことを言うておられます。「知らない顔も見えない人に、心ないこと言われ、知らない顔も見えない人に、殺害予告されたり、人間がいったばん怖い生き物だよ。ストレス発散のため？気にしない、見ない、それしか解決策もない芸能人になるんだったら、それも覚悟して出ろってよく言われる。そうゆう考えなのがもう怖い。」

ここにも実は自己責任論が存在しています。自分たちも社会の中で大変な目に遭っている。そのような職業をあなたが選んだのだから、自分でどうにかするべきだ。気にしないで、見ないようにして、自分で乗り越える必要がある。それができてプロだろう。

しかし、よく考えてみてください。そもそもそのような立場に置かれてよい職業というものが、いいえ、人間というものが存在していてよいはずがありません。

イエスがこの地上を歩んでいた時代、ユダヤ教という宗教がユダヤ社会の価値観を決めていました。聖書に書かれている律法によって、人々は神の祝福を得られる神側にいる清い者と、神の祝福を得られない神側にいない汚れた者に分けられていました。神側にいない者に起こることは病気になったり、事故に遭ったり、生まれながらに、あるいは人生の途中で、体や心に障がいを与えられるようなことでした。人生において、良くないことに遭遇するのは神に何か悪いことをしたから、その報いが来たのだと考えられていたのです。そしてそのような人たちを、彼らは罪人と呼びました。人間を良い者、悪い者に分ける、そこにユダヤ教の判断が入っていたために、聖と俗に分けるようなことが行われていきます。ですから、ユダヤの人たちは自分の外にあるすべてのものを、どちらのものであるのかを判断しなければならなかったわけです。自分のいる世界がすべて二分化されていました。

そんなユダヤの社会のただ中で、イエスは群衆を集めて語ります。「皆、わたしの言うことを聞いて悟りなさい。外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである。」

イエスの得意なたとえ話が語られます。イエスが群衆と別れ、家に入ると弟子たちが彼にその意味を尋ねます。するとイエスは言います。「あなたがたも、そんなに物分かりが悪いのか。すべて外から人の体に入るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。それは人の心の中に入るのではなく、腹の中に入り、そして外に出される。こうして、すべての食べ物は清められる。」

この聖書箇所を聖書学者の田川健三訳で読んでみるとこうなります。「『あなたたちまでこのようにものわかりが悪いのか。外から人間の中に入ってくるものはすべて人間を汚すことなぞありえない、ということがわからないのか。それは人間の心に入ってくるのではなく、腹の中に入り、そして便所に出て行くだけだ、ということが』イエスはすべての食べ物は清いとしていたのである。」

ここで、イエスは食べ物だけのことを語ろうとしていません。人間の外に存在しているすべてのものがそれ自体において、人間を汚すことなどあり得ないということを言っています。それどころか、すべてのものが清いとまで言っています。何でも二分化しようとするユダヤ社会に対して、激しい批判をしているのです。

さらにイエスは語ります。「人から出て来るものこそ、人を汚す。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。」

イエスが語っていることは、自らが考えた悪い思いが自分自身を汚すという個人的なことを言っているわけではありません。私たち人間の中から出てくるものが、世のすべての人間を汚すのだということを語っているのです。

そんな人々を汚す人間の心から出てくるものが、「みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など」で、それらがすべて、人間の心の中から出てきて、人間を汚すのだとイエスは言います。現代の私たちが直面している現実を見ると、一番たちの悪い思いは傲慢、無分別から来ている自らの正しさ、正義であると思わされます。

このイエスの言葉に私たちはドキッとさせられます。私たちが個人の事柄として、考え、行動した悪いことは、実はこの世の人間すべてを汚すことになっていたということです。私の思いは世界につながっているのです。

私たちが生きていく中で、心の中に抱く思い、そしてそこから生まれる行動が全く自己責任という領域になく、人間すべてに関わっているとイエスは述べています。この世界の今の状況は、まさに私たち一人一人の吐き出す思いから、人間、そしてこの世界を苦しめる状況を生んでしまっているのです。

今日のイエスのたとえには二つのことが語られています。一つ目は、この世界に汚れている存在はないということです。この食べ物を食べたとか、この物体に触ったとか、またこの場所に行ったらとか、このような人たちに会ったら汚れるということはありません。なぜなら、この世界すべてを創られたのが神であるからです。創世記に、「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」と述べられています。このような行いをしたら、このような考え方をしたら、素晴らしいというわけではありません。いつも自分を良き者にするためだけに、生きる必要もありません。私たちの存在そのものが良きものなのです。

二つ目は、汚れが私たち人間の心の中から出て来るということです。そして恐ろしいことに、この思いを外に出したことがない人は存在していないのです。そんな汚れを吐き出している私たちは、この事柄を今まで自己責任にしてきたように思います。「あなたが悪い。あなたが改心して、変わればよい。」さらにもっと神を真剣に信じて神に従えば、信仰をしっかりと持てば、そんなことをすることはなくなるとまで考えてきました。

本当にそうなりますか。誰かがそのような汚れを吐き出すことについて、周りの私たちも一緒に考えなければ、何も変わっていきません。何か悪い思いを抱き、行動している人に、

あなたが神を信じ、懺悔して、生き方を変えなさいというのではなく、あなたがどうしてそのような悪い思いを抱き、行動するのかを共に考えて、一緒に変わっていきましょうと語る必要があるということになります。

人間の心から出てきたものによって、今の世界が作られています。それを誰かのせいだけにはできません。自分もそこに立たなければならないのです。

私たちの世界、そして人間、私自身は、神によって、素晴らしい存在です。先ず私たちはこのことに気づく必要があります。誰かと比べる必要もなく、他者が持っているものを欲しがることもなく、一番になる必要もないのです。私たちから出て来る悪しき思いは、そのままの自分が受け入れられ、満たされていることを知るとき、外に向かって出て来ることはありません。

今の世界が邪悪な欲望に満ちている理由は、各自が自己承認できないために、心の内から、すべての人間を汚すこと、攻撃することを起こしていると言えます。私たちはすぐにも、人間を汚すことをやめなければなりません。

私の外の世界も素晴らしく、自分自身も素晴らしい。そのような思いが与えられるとき、私たちの心がゆがんでいくことはないでしょう。イエスの歩みは、この世界を本来の姿に帰すことだったのです。

さて、私たちキリスト教会は今までどんな立ち方をしてきたのでしょうか。自分たちの価値観を絶対化し、外のものを恐ろしいもの、価値のないものとし、その価値観を守ることを考えてこなかったのでしょうか。そして、自分たちに反するものを悪魔とし、賛同する者たちを神側の者としてきたのではないのでしょうか。それは律法学者たちと同じ歩みです。日々、自分を守るために他者を攻撃するより、この世界の素晴らしさを知る歩みをするべきです。女子プロレスラー木村さんの出来事は私の事柄、私たちの事柄です。言葉によって、他者を死に追いやる時代において、二度とこのようなことが起きないために、私たちが吐き出す思いをしっかりと捉えながら、この被造物世界の素晴らしさを回復していきたいと思えます。

最後に聖書を一カ所お読みして、メッセージを終わります。

箴言 10 : 22 「人間を豊かにするのは主の祝福である。人間が苦勞しても何も加えることはできない。」